第１部　調査の概要

第１章　調査実施の概要

１　調査の目的

川崎市では、昭和 60 年から５年毎に青少年の意識調査を実施している。今回の調査は、この 30 年間の動向の変化を把握するとともに、子ども・若者育成支援推進法の施行に伴い、これまでの 24 歳までから 30 歳までと対象年齢の上限を引き上げ、若者世代を広く対象とし、背景となる社会状況との関連、川崎市としての特徴等の観点から子ども・若者の意識及び行動等の実態、行政に対する意見等を広く把握し、今後の子ども・若者施策の基礎資料を得ることを目的とする。

２　調査設計と回収状況

（１）調査地域

川崎市全域

（２）調査対象

川崎市内在住の満 13 歳以上 30 歳までの男女個人 3,000 人

（３）抽出方法

住民登録のある者から無作為に抽出（平成 27 年５月 23 日現在）

（４）調査方法

郵送配布・郵送回収法

（５）調査実施期間

平成 27 年６月 18 日（木）～７月 31 日（金）

※ただし、平成 27 年８月 14 日（金）到着分まで有効票に含め分析を行った

（６）調査項目

- 基本属性
- 居住地
- 地域での活動
- ボランティア活動
- 学校・職場でのグループ活動
- 日常生活
- ニュースへの関心
- 携帯電話・パソコン等の利用状況
- 子ども・若者の意識
- 行政施策の認知度、要望

（７）回収状況

調査対象	回収数	回収率
3,000件	618件	20.6%

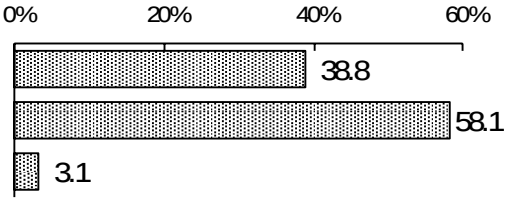
（８）調査実施機関

株式会社綜合企画

３　回答者のプロフィール

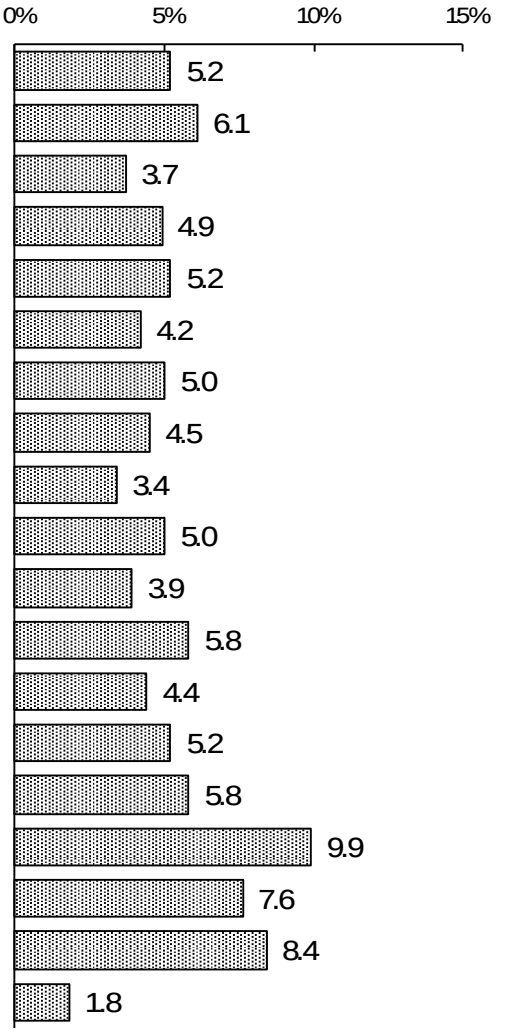
性別

	基数	構成比
男性	240	38.8%
女性	359	58.1%
無回答	19	3.1%
全 体	618	100.0%



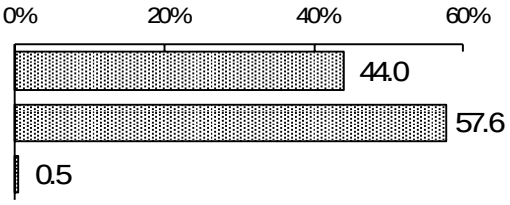
年齢

	基数	構成比
13歳	32	5.2%
14歳	38	6.1%
15歳	23	3.7%
16歳	30	4.9%
17歳	32	5.2%
18歳	26	4.2%
19歳	31	5.0%
20歳	28	4.5%
21歳	21	3.4%
22歳	31	5.0%
23歳	24	3.9%
24歳	36	5.8%
25歳	27	4.4%
26歳	32	5.2%
27歳	36	5.8%
28歳	61	9.9%
29歳	47	7.6%
30歳	52	8.4%
無回答	11	1.8%
全 体	618	100.0%

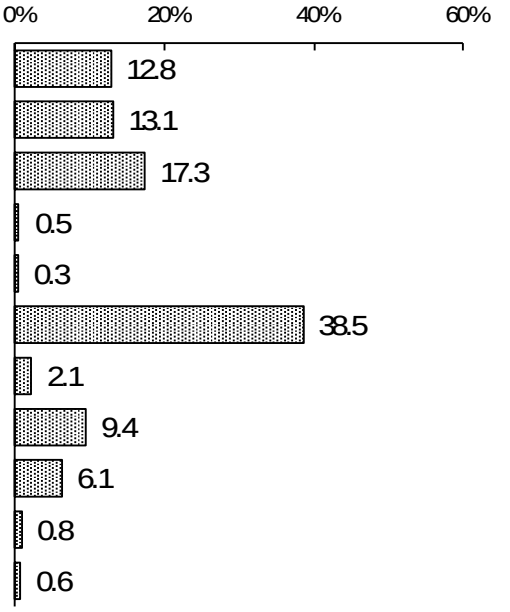


就学・就労状況

	基数	構成比
学生・計	272	44.0%
社会人・計	356	57.6%
無回答	3	0.5%
全 体	618	100.0%

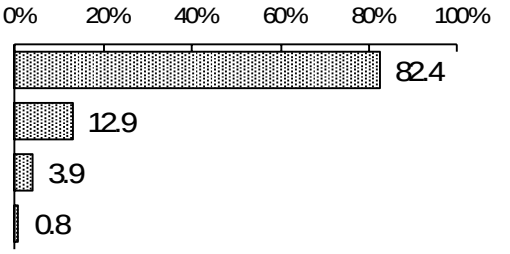


中学校	79	12.8%
高等学校	81	13.1%
大学（院）、専門学校、予備校等	107	17.3%
その他	3	0.5%
学校無回答	2	0.3%
正社員	238	38.5%
派遣社員・契約社員	13	2.1%
アルバイト・パート	58	9.4%
無職（専業主婦含む）	38	6.1%
その他	5	0.8%
雇用形態無回答	4	0.6%
全 体	618	100.0%



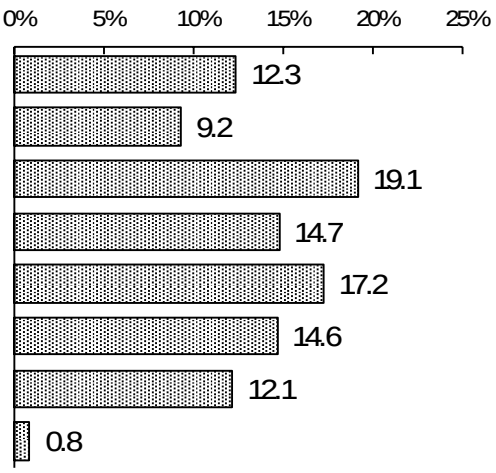
同居家族

	基数	構成比
父母やきょうだい、夫や妻などの家族	509	82.4%
一人暮らし	80	12.9%
その他	24	3.9%
無回答	5	0.8%
全 体	618	100.0%



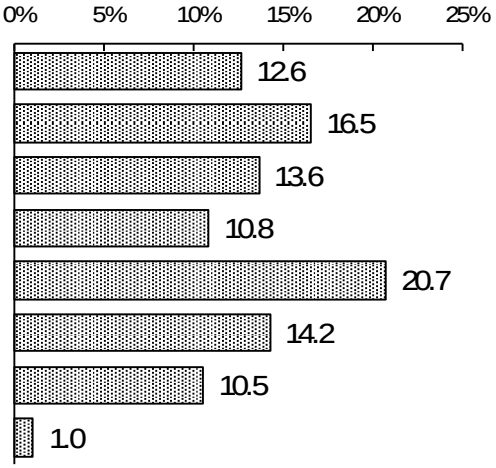
居住区

	基数	構成比
川崎区	76	12.3%
幸区	57	9.2%
中原区	118	19.1%
高津区	91	14.7%
宮前区	106	17.2%
多摩区	90	14.6%
麻生区	75	12.1%
無回答	5	0.8%
全 体	618	100.0%



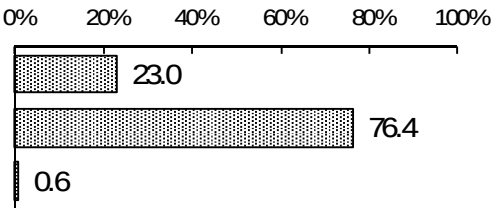
居住年数

	基数	構成比
1年未満	78	12.6%
1～3年未満	102	16.5%
3～5年未満	84	13.6%
5～10年未満	67	10.8%
10～15年未満	128	20.7%
15～20年未満	88	14.2%
20年以上	65	10.5%
無回答	6	1.0%
全 体	618	100.0%



未既婚

	基数	構成比
結婚している	142	23.0%
結婚していない	472	76.4%
無回答	4	0.6%
全 体	618	100.0%



４　調査の時系列比較

今回の調査報告書では、川崎市における平成 12 年度・平成 17 年度・平成 22 年度の青少年意識調査結果との比較を行っている。各調査の実施概要は以下のとおりである。

比較内容	過去の調査			今回の調査
調査名	平成12年度川崎市 青少年意識調査	平成17年度川崎市 青少年意識調査	平成22年度川崎市 青少年意識調査	平成27年度川崎市 子ども･若者実態調査
実施団体	川 崎 市			
調査対象	市内在住13～24歳の男女個人			市内在住13～30歳の 男女個人
調査方法	郵送配布 訪問回収法	郵送配布郵送回収法		
実施時期	平成12年12月９日～ 平成13年２月１日	平成17年 11月30日～12月28日	平成22年 ９月１日～９月30日	平成27年 ６月18日～７月31日
設計数	1,500件	4,000件	3,000件	3,000件
回収数 （回収率）	791件 （52.7%）	1,313件 （32.9%）	1,094件 （36.5%）	618件 （20.6%）

５　調査結果を見る上での注意事項

・本文、表、グラフなどに使われる「ｎ」は、各設問に対する回答者数である。
・百分率（%）の計算は、小数第２位を四捨五入し、小数第１位まで表示した。したがって、単数回答（１つだけ選ぶ質問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて 100%にならない場合がある。
・複数回答（２つ以上選ぶ質問）においては、%の合計が 100%を超える場合がある。
・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部省略化している場合がある。
・回答者数が 30 未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向をみるにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
・無回答の属性、回答者数が１桁の属性は、作表・作図していない場合がある。

第２章　調査結果の概要

１　子ども・若者の生活

（１）居住地

ア　居住地の好意度

居住地の好意度は、約８割強の方が『好き（計）』と回答している。平成 22 年度調査に比べ、『好き（計）』は増えており、過去３回の調査で最高となった（23 ページ参照）。

好きな理由は、「住みなれたところだから」が 31.7%で最も高く、次いで「交通機関が便利だから」、「日常生活が便利だから」の順であった。「交通機関が便利だから」は、居住年数が短くなるほど、その割合も増えている（26 ページ参照）。

きらいな理由は、「交通機関が不便だから」、「日常生活が不便だから」、「自然環境がよくないから」の順であった。

（n＝618）

居住地の好意度		
好きである	249	40.3%
まあ好きである	272	44.0%
あまり好きではない	36	5.8%
きらいである	6	1.0%
どちらともいえない	48	7.8%
無回答	7	1.1%

（単一回答）

好きな理由（上位3位）	（n＝521）（単一回答）	
住みなれたところだから	165	31.7%
交通機関が便利だから	163	31.3%
日常生活が便利だから	124	23.8%

きらいな理由（上位3位）	（n＝42）（単一回答）	
交通機関が不便だから	9	21.4%
日常生活が不便だから	5	11.9%
自然環境がよくないから	3	7.1%

イ　定住意向

定住意向は、「どちらでもよい」が４割強で最も高く、「住んでいたい」と「移りたい」では「移りたい」割合のほうが高くなっている。経年比較では、「住んでいたい」割合は増加傾向にある。また、「移りたい」割合は、居住年数の短い層で高かった（29、30 ページ参照）。

（n＝618）

定住意向		
住んでいたい	116	18.8%
どちらでもよい	280	45.3%
移りたい	149	24.1%
わからない	64	10.4%
無回答	9	1.5%

（単一回答）

（２）地域での活動

ア　地域活動への参加状況

地域活動への参加割合は 10.0%で、経年比較では、参加割合は微増傾向にある（31 ページ参照）。また、参加割合は【中学校】で 29.1%と高くなっている（33 ページ参照）。活動内容は「祭・運動会などの地域のイベント」や「スポーツ活動（野球・サッカーなど）」の割合が高い。一方、不参加の理由では、「地域でどのような活動が行われているか知らないから」の割合が高くなっている。

（n＝618）

地域活動への参加状況					
参加している	62	10.0%	活動内容（上位3位）	（n＝62）	（複数回答）
			祭・運動会など地域のイベント	37	59.7%
			スポーツ活動（野球・サッカーなど）	14	22.6%
			文化・芸術活動（音楽・ダンスなど）	10	16.1%
参加していない	553	89.5%	不参加理由（上位3位）	（n＝553）	（単一回答）
			地域でどのような活動が行われているか知らないから	207	37.4%
			参加する時間的余裕がないから	128	23.1%
			地域の活動には興味がないから	80	14.5%
無回答	3	0.5%			

（単一回答）

（３）ボランティア活動

ア　ボランティア活動への参加状況

ボランティアの参加割合は 19.7%で、性別では女性の参加割合のほうが高く、就学・就労別では【大学（院）、専門学校、予備校等】、【派遣社員・契約社員】で高い（39 ページ参照）。活動内容は、「清掃、緑化活動」が最も高くなっている。不参加理由は「ボランティア活動に参加するきっかけがないから」が最も高くなっている。経年比較では、「参加する時間がないから」の割合が増加傾向である（41 ページ参照）。

（n＝618）

ボランティア活動への参加状況					
参加している	122	19.7%	活動内容（上位3位）	（n＝122）	（複数回答）
			清掃、緑化活動	51	41.8%
			子どもや青少年のための活動	30	24.6%
			学校や仕事に関する活動	30	24.6%
参加していない	495	80.1%	不参加理由（上位3位）	（n＝495）	（単一回答）
			ボランティア活動に参加するきっかけがないから	173	34.9%
			ボランティア活動に参加する時間がないから	165	33.3%
			ボランティア活動には興味がないから	89	18.0%
無回答	1	0.2%			

（単一回答）

（４）学校・職場でのグループ活動

ア　部活動・団体活動への参加状況

部活動・団体活動への参加割合は 44.7%で、平成 22 年度と比較すると、参加割合は減少傾向にある。男性の参加割合のほうが高く、また、就学・就労別では、学生の参加割合が高くなっている（43、44 ページ参照）。

（n＝618）

部活動・団体活動への参加状況		
参加している	276	44.7%
参加していない	341	55.2%
無回答	1	0.2%

（単一回答）

（５）日常生活

ア　自由な時間の有無

自由な時間の有無は、「平日にある」方は 53.7%、「休日にある」方は 80.7%となっている（45 ページ参照）。

（n＝618）

自由な時間の有無		
平日、休日ともに自由な時間がある	310	50.2%
平日は自由な時間があるが、休日はほとんどない	22	3.6%
休日は自由な時間があるが、平日はほとんどない	189	30.6%
平日、休日ともに自由な時間はほとんどない	95	15.4%
無回答	2	0.3%

（単一回答）

イ　自由な時間の過ごし方

自由な時間の過ごし方として、平日の場合、「自分の家」で、「一人で過ごす」割合が高い。また、食事やおしゃべり、テレビ・DVD・雑誌などの鑑賞をしている割合が高い。休日の場合、「自分の家」で、「一人で過ごす」割合が高く、また、買い物、食事やおしゃべりをして過ごしている割合が高い。

	（n＝332）			（n＝499）		
	平日（上位3位）		（複数回答）	休日（上位3位）		（複数回答）
場所	自分の家	258	77.7%	自分の家	300	60.1%
	デパート、ショッピングセンター等	51	15.4%	デパート、ショッピングセンター等	199	39.9%
	ファストフード、ファミリーレストラン等	45	13.6%	カラオケボックス、アミューズメント施設（ゲームセンター、ボウリングなど）	71	14.2%
相手	一人で過ごす	191	57.5%	一人で過ごす	209	41.9%
	家族	107	32.2%	家族	203	40.7%
	学校の友達（クラス・クラブ・部活）	102	30.7%	学校の友達（クラス・クラブ・部活）	140	28.1%
過ごし方	テレビ、DVD、漫画、雑誌などをみる	116	34.9%	食事をしたり、おしゃべりをしたりする	157	31.5%
	食事をしたり、おしゃべりをしたりする	115	34.6%	買い物をする	154	30.9%
	特に何もせず、ぶらぶらしたり、寝転がったりしている	72	21.7%	テレビ、DVD、漫画、雑誌などをみる	103	20.6%
求めるもの	リフレッシュ	117	35.2%	リフレッシュ	185	37.1%
	やすらぎ	105	31.6%	楽しさ	184	36.9%
	楽しさ	95	28.6%	やすらぎ	153	30.7%

（６）ニュースへの関心

ア　ニュースをみる頻度

ニュースは「ほとんど毎日かかさずみている」（59.1%）が最も高く、「時々みている」（33.2%）を合わせると、９割強の方がみている。平成 22 年度調査に比べると、ニュースを見る頻度は増加した（51 ページ参照）。

（n＝618）

ニュースをみる頻度		
ほとんど毎日みている	365	59.1%
時々みている	205	33.2%
ほとんどみない	39	6.3%
全くみない	5	0.8%
無回答	4	0.6%

（単一回答）

（７）パソコン・携帯電話等の利用状況

ア　インターネット接続機器の利用状況

インターネット接続機器の利用状況は、「スマートフォン」利用の割合が 87.4%で最も高く、利用目的は「インターネットでの情報収集」が 89.9%で最も高く、「メールをする」が 73.4%で続いている。

（n＝618）

インターネット接続機器の利用状況		
スマートフォン	540	87.4%
パソコン	395	63.9%
タブレット	115	18.6%
ゲーム機	65	10.5%
携帯電話（ガラケー）	44	7.1%
その他	2	0.3%
以前は利用していたが、現在は利用していない	1	0.2%
利用していない	4	0.6%
無回答	－	－

（複数回答）

パソコン・携帯電話などの利用目的（上位5位）	（n＝613）	（複数回答）
インターネットでの情報収集	551	89.9%
メールをする	450	73.4%
SNSやチャットをする	435	71.0%
電話をする	425	69.3%
DVDや動画、音楽の鑑賞	382	62.3%

イ　携帯電話での通話時間

１日の通話時間は 30 分未満が 68.5%となっている。携帯電話を持っていない割合は 1.5%で、非常に低い。

（n＝613）

１日の携帯での通話時間（スマートフォンを含む）		
0分～30分	420	68.5%
30分～1時間	16	2.6%
1～2時間	75	12.2%
2～4時間	57	9.3%
4時間以上	33	5.4%
携帯電話を持っていない	9	1.5%
無回答	3	0.5%

（単一回答）

ウ　メール送信回数

１日のメール送信回数は、「５回以下」（56.3%）が最も高くなっている。

（n＝613）

1日のメール送信回数		
5回以下	345	56.3%
6～10回	53	8.6%
11～15回	70	11.4%
16～20回	16	2.6%
21～30回	34	5.5%
31～50回	10	1.6%
51回以上	8	1.3%
メールをしない	73	11.9%
無回答	4	0.7%

（単一回答）

エ　ＳＮＳの利用時間

ＳＮＳの利用時間は、平日・休日とも「０～１時間」が最も高いが、休日の場合は平日に比べて、３時間以上の割合がどれも増加しており、アクセス時間は長くなっている。

（n＝613）

1日のSNS（LINE、Facebook、Twitterなど）の利用時間					
平日			休日		
0～1時間	273	44.5%	0～1時間	243	39.6%
1～3時間	159	25.9%	1～3時間	137	22.3%
3～5時間	93	15.2%	3～5時間	112	18.3%
5～8時間	24	3.9%	5～8時間	44	7.2%
8時間以上	9	1.5%	8時間以上	16	2.6%
SNSを全く利用していない	53	8.6%	SNSを全く利用していない	53	8.6%
無回答	2	0.3%	無回答	8	1.3%

（単一回答）　（単一回答）

オ　インターネットトラブル

44.5%の方が「被害にあったことはない」と回答している。トラブル内容としては、「迷惑メールの送付」と「身におぼえのない料金の請求」が高かった。また、トラブル時の相談先は、５割の方が「誰にも相談していない」と回答している。相談体制や情報提供の必要性がうかがえる。相談相手としては、「家族」、「友人や先輩・後輩」の割合が高かった（65 ページ参照）。

（n＝614）

インターネットトラブル被害経験の内容（上位5位）		
迷惑メール（チェーンメールなど）が頻繁に送られてきた	272	44.3%
身におぼえのない料金を請求された	83	13.5%
知らないうちに会員登録や契約をしてしまった	39	6.4%
コンピュータウイルスに感染した	30	4.9%
LINEやTwitter、Facebook、メールなどで、中傷やいやがらせを受けた	26	4.2%
被害にあったことはない	273	44.5%

（複数回答）

カ　コミュニティサイトへのアクセス経験

『アクセス経験あり（計）』の割合は 45.5%で、経験率は、【無職（専業主婦含む）】、【アルバイト・パート】、【派遣社員・契約社員】の順に高くなっている。（67、68 ページ参照）

（n＝614）

コミュニティサイトへのアクセス経験		
アクセスし、利用したことがある	181	29.5%
アクセスしたことがあるが、利用したことはない	98	16.0%
アクセスしたことはない	159	25.9%
知らない、わからない	167	27.2%
無回答	9	1.5%

（単一回答）

キ　フィルタリングソフト

認知度は７割強で、平成 22 年度に比べて増加した。就学・就労別では、【大学（院）、専門学校、予備校等】や【派遣社員・契約社員】で高くなっている（69、70 ページ参照）。

利用割合は 23.3%で、就学・就労別では【中学校】で 52.3%、【高等学校】で 49.2%となっている(72 ページ参照)。

また、知り得た手段としては、「新聞、雑誌、テレビ、インターネットなど」が最も高かった。

（n＝618）

フィルタリングソフトの認知度		
知っている	459	74.3%
知らなかった	157	25.4%
無回答	2	0.3%

（単一回答）

利用状況	（n＝459）	（単一回答）
現在、利用している	107	23.3%
利用していない	245	53.4%
前に利用していたが、今は利用していない	61	13.3%
利用しているかはわからない	44	9.6%
無回答	2	0.4%
知ったきっかけ（上位3位）	**（n＝459）**	**（複数回答）**
新聞、雑誌、テレビ、インターネットなど	187	40.7%
パソコン、携帯電話会社など	168	36.6%
両親、家族から教えてもらった	115	25.1%

２　子ども・若者の意識

（１）子ども・若者の意識

ア　現在の関心事

現在の関心事は「自分の将来や進路のこと」（68.3%）が最も高く、今年度から調査項目に加わった「お金のこと」（59.5%）が次に高くなっている。

（n＝618）

現在の関心事（上位5位）		
自分の将来や進路のこと	422	68.3%
お金のこと	368	59.5%
仕事のこと	300	48.5%
趣味のこと	289	46.8%
生活のこと	282	45.6%

（複数回答）

イ　幸福感

『幸福である（計）』の割合は 82.4%であった。性別では、女性のほうが『幸福である（計）』の割合が 85.5%と、高くなっている（76、77 ページ参照）。

（n＝618）

幸福感		
そう思う	257	41.6%
どちらかといえばそう思う	252	40.8%
どちらともいえない	68	11.0%
どちらかといえばそう思わない	22	3.6%
そう思わない	－	－
わからない	17	2.8%
無回答	2	0.3%

（単一回答）

ウ　自己肯定感

ふだんの自身の行動を振り返り、『うまくいっている』と思う方の割合は 61.6%で、平成 22 年度調査に比べて微増した。就学・就労別では、【正社員】、【アルバイト・パート】で自己肯定感が比較的高くなっている（78、79 ページ参照）。

（n＝618）

自己肯定感		
だいたい何でもうまくやりとげている自信がある	57	9.2%
苦手なことはあるが、たいていのことはまあまあうまくいっている	324	52.4%
うまくいくこともあるが、自信がもてない事が多い	186	30.1%
何事においても自信がない	32	5.2%
わからない	18	2.9%
無回答	1	0.2%

（単一回答）

エ　理想とする生き方

理想とする生き方は「家族と幸せに暮らすこと」（50.6%）の割合が特に高くなっている。経年比較では、「自分の好きなように暮らすこと」が最も高かったのが、「家族と幸せに暮らすこと」のほうに変わった（80 ページ参照）。

（n＝618）

理想とする生き方		
経済的に豊かになること	74	12.0%
社会的な地位や名誉を得ること	8	1.3%
自分の好きなように暮らすこと	173	28.0%
社会のために尽くすこと	14	2.3%
家族と幸せに暮らすこと	313	50.6%
わからない	20	3.2%
その他	11	1.8%
無回答	5	0.8%

（単一回答）

オ　仕事を選ぶ際、重視すること

「職場の雰囲気や人間関係」と「自分のやりたい仕事内容であること」の割合が特に高くなっている。理想とする生き方とのクロス集計でみると、前者の回答は、【家族と幸せに暮らすこと】を理想とする割合が高く、後者は、【社会的な地位や名誉を得ること】を理想とする割合が特に高かった（82 ページ参照）。

（n＝618）

仕事を選ぶ際、重視すること（上位5位）		
職場の雰囲気や人間関係	353	57.1%
自分のやりたい仕事内容であること	327	52.9%
給料が高いこと	243	39.3%
事業が安定していて、長い年数働き続けられること	164	26.5%
労働時間が短く、休日が多いこと	129	20.9%

（複数回答）

カ　学校や職場の楽しさ

『楽しい（計）』と感じている方の割合は 74.8%となっている。学生の場合、８割以上が『楽しい（計）』と感じており、社会人よりも高くなっている（84 ページ参照）。楽しくない理由としては、学校の場合、「なんとなく面白くないから」、職場の場合、「仕事が忙しすぎるから」の割合が高かった。

（n＝618）

学校や職場の楽しさ		
楽しい	181	29.3%
まあ楽しい	281	45.5%
あまり楽しくない	83	13.4%
楽しくない	22	3.6%
今はどちらにも所属していない	44	7.1%
無回答	7	1.1%

（単一回答）

【学校】楽しくない理由（上位3位）	（n＝29）	（複数回答）
なんとなく面白くないから	9	31.0%
友達がいないから	8	27.6%
学校の規則や先生がきらいだから	6	20.7%

【職場】楽しくない理由（上位3位）	（n＝77）	（複数回答）
仕事が忙しすぎるから	34	44.2%
職場の方針などに不満があるから	30	39.0%
給与や待遇に不満があるから	25	32.5%

キ　就職する上で有利になると思うもの

「コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力」（68.4%）が最も高くなっている。

（n＝618）

就職する上で身に付けると有利になると思うもの（上位5位）		
コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力	423	68.4%
資格	251	40.6%
学歴	179	29.0%
海外経験や語学力	137	22.2%
パソコンなどのIT技能	74	12.0%

（複数回答）

ク　転職についての考え方

「不満があれば、転職することもやむを得ない」（47.9%）が最も高くなっている。「転職せず、一生一つの職場で働き続けるべきである」は、学生のほうが社会人に比べその割合は高くなっている（90 ページ参照）。

（n＝618）

転職についての考え方		
不満があれば、転職することもやむをえない	296	47.9%
不満があれば、転職する方がよい	145	23.5%
不満がなくても、自分の才能を生かすためには、積極的に転職する方がよい	69	11.2%
転職せず、一生一つの職場で働き続けるべきである	61	9.9%
わからない	39	6.3%
無回答	8	1.3%

（単一回答）

ケ　結婚についての考え方

「結婚したほうがよい」が最も高く、就学・就労別では、『結婚肯定派』は【正社員】や【派遣社員・契約社員】で高くなっている（92 ページ参照）。結婚したほうがよい理由としては、「自分の子どもや家族がもてる」（76.2%）の割合が特に高く、一方、結婚しなくてもよい理由では、「自分の趣味や娯楽を楽しむことができる」（69.7%）が特に高かった。

（n＝618）

結婚についての考え方		
結婚すべきだ	151	24.4%
結婚したほうがよい	315	51.0%
結婚しなくてもよい	90	14.6%
結婚しないほうがよい	9	1.5%
わからない	52	8.4%
無回答	1	0.2%

（単一回答）

「結婚したほうがよい/すべき」と思う主な理由（上位3位）		（n＝466）
自分の子どもや家族をもてる	355	76.2%
精神的な安らぎの場が得られる	270	57.9%
愛情を感じている人と暮らせる	267	57.3%

「結婚しないほうがよい/しなくてよい」と思う主な理由（上位3位）		（n＝99）
自分の趣味や娯楽を楽しむことができる	69	69.7%
1人でも不便を感じない	44	44.4%
経済的に余裕のある暮らしができる	27	27.3%

（複数回答）

コ　社会に対する満足度

現在の日本社会について、５割強の方が『満足していない（計）』と回答しており、『満足している（計）』を大きく上回る結果となった。満足していない理由としては、「ものごとが、一部の人の意見や考え方で決められることがあるから」（56.2%）の割合が特に高くなっている。

（n＝618）

日本社会に対する満足度		
満足である	29	4.7%
やや満足である	162	26.2%
やや不満である	227	36.7%
不満である	104	16.8%
わからない	87	14.1%
無回答	9	1.5%

（単一回答）

日本社会に満足していない理由（上位5位）	（n＝331）（複数回答）	
ものごとが、一部の人の意見や考え方で決められることがあるから	186	56.2%
まじめな者がむくわれないから	132	39.9%
正しいことが通らないから	109	32.9%
貧富の差がありすぎるから	104	31.4%
若者の意見が反映されていないから	91	27.5%

サ　この１年間にされた嫌なこと

１年間にいじめ・いやがらせの経験のない割合は 58.4%であった。いじめ・いやがらせの内容としては、「自分の欠点や弱点をからかわれた」（19.3%）と「ばかにされたり、悪口を言われた」（18.8%）の割合が比較的高くなっている。

（n＝618）

この1年間にされた嫌なこと（上位5位）		
自分の欠点や弱点をからかわれた	119	19.3%
ばかにされたり、悪口を言われた	116	18.8%
真面目な意見を言ったり、良い成績をとると、冷やかされたり、いやみを言われたりした	48	7.8%
職場で不当な扱いを受けた	32	5.2%
いたずら電話や変な電話、メール、手紙が送られてきた	30	4.9%
以上のようなことは、この1年間にされなかった	361	58.4%

（複数回答）

シ　悩みごとの相談相手

悩みごとの相談相手は、「友人」（61.5%）、「母」（56.8%）の順で、平成 22 年度調査と変わりはなかったが、前回調査に比べ「友人」が減少し、「母」「夫・妻」「学校・職場の先輩・後輩」の割合は増加した（101 ページ参照）。

（n＝618）

悩みごとの相談相手（上位5位）		
友人	380	61.5%
母	351	56.8%
父	133	21.5%
兄弟・姉妹	125	20.2%
夫・妻	117	18.9%

（複数回答）

ス　「いらいらする」「むかつく」と感じること

「いらいらする」「むかつく」と『感じる（計）』割合は 77.5％で、経年比較すると、増加傾向にある（102 ページ参照）。「いらいらする」「むかつく」と感じる内容は、「物事が自分の思うように進まないとき」（63.0％）が最も高くなっている。

（n＝618）

「いらいらする」「むかつく」と感じること		
しょっちゅうある	168	27.2%
ときどきある	311	50.3%
あまりない	122	19.7%
ない	15	2.4%
無回答	2	0.3%

（単一回答）

「いらいらする」「むかつく」と感じるとき（上位3位）	（n＝479）	（複数回答）
物事が自分の思うように進まないとき	302	63.0%
他の人が悪いことやルールを守らないのを見たり、聞いたりしたとき	220	45.9%
友達や仲間の悪口を言われたとき	139	29.0%

セ　非行する人への理解度

４割弱の方が非行する人に『理解できる（計）』と回答している。【中学校】【高等学校】【大学（院）、専門学校、予備校等】となるほど、理解度が増している（106 ページ参照）。非行の原因としては、「家庭環境の問題」（78.5％）が最も高くなっている。

（n＝618）

非行する人への理解度		
理解できる	53	8.6%
だいたい理解できる	184	29.8%
あまり理解できない	204	33.0%
理解できない	176	28.5%
無回答	1	0.2%

（単一回答）

非行の原因だと考えるもの（上位3位）	（n＝618）	（複数回答）
家庭環境の問題	485	78.5%
本人の問題	379	61.3%
保護者の問題	327	52.9%

ソ　青少年の健全育成に大切だと思うこと

青少年の健全な育成のために大切だと思うこととしては、「保護者と子どもが積極的に会話をし、ふれあう機会を多くもつこと」（67.3％）が最も高かった。

（n＝618）

青少年の健全な育成に大切だと思うこと（上位5位）		
保護者と子どもが積極的に会話をし、ふれあう機会を多く持つこと	416	67.3%
大人が子どもの自主性を尊重し、過保護、過干渉にならないようにすること	313	50.6%
保護者が手本となるような生活態度を示すこと	275	44.5%
大人が子どもに生命や物の大切さをもっと教えること	232	37.5%
青少年の居場所や遊び場などを作ること	200	32.4%

（複数回答）

３　行政施策の認知度、要望

（１）行政施策の認知度、要望

ア　施設の認知度・利用状況

認知度の高い施設は、上位から「藤子・Ｆ・不二雄ミュージアム」（84.6%）、「市立図書館」（81.1%）、「等々力陸上競技場」（69.3%）の順である。利用経験の割合の高い施設は、「市立図書館」（61.5%）、「八ヶ岳少年自然の家」（46.6%）、「とどろきアリーナ」（45.0%）の順であった（112 ページ参照）。

（n＝618）

	認知度		利用経験あり	
1. 青少年の家（宮前区）	116	18.8%	58	9.4%
2. 八ヶ岳少年自然の家（長野県）	322	52.1%	288	46.6%
3. 黒川青少年野外活動センター（麻生区）	79	12.8%	36	5.8%
4. 市民館・教育文化会館	342	55.3%	213	34.5%
5. 市立図書館	501	81.1%	380	61.5%
6. かわさき宙と緑の科学館（多摩区）	231	37.4%	134	21.7%
7. 岡本太郎美術館（多摩区）	414	67.0%	202	32.7%
8. 藤子・F・不二雄ミュージアム（多摩区）	523	84.6%	113	18.3%
9. こども文化センター	354	57.3%	268	43.4%
10. 子ども夢パーク（高津区）	172	27.8%	69	11.2%
11. かわさき市民活動センター（中原区）	106	17.2%	19	3.1%
12. ふれあい館（川崎区）	85	13.8%	18	2.9%
13. 市民ミュージアム（中原区）	277	44.8%	164	26.5%
14. とどろきアリーナ（中原区）	420	68.0%	278	45.0%
15. 等々力陸上競技場（中原区）	428	69.3%	232	37.5%
16. 市営スポーツセンター	237	38.3%	103	16.7%
17. 市営野球場	178	28.8%	29	4.7%
18. 市営サッカー場	155	25.1%	26	4.2%
19. 市営テニスコート	188	30.4%	36	5.8%
20. 市営武道館	145	23.5%	19	3.1%
21. 市営プール	332	53.7%	235	38.0%
22. ミューザ川崎シンフォニーホール（幸区）	351	56.8%	184	29.8%
23. キャリアサポートかわさき（高津区）	63	10.2%	5	0.8%
24. かわさき若者サポートステーション（高津区）	59	9.5%	11	1.8%

（単一回答）

イ　青少年施設への要望

青少年施設への要望は、前回調査では下位であった「友だちや仲間ができるようにしてほしい」（25.9%）が最も高くなっている（113 ページ参照）。

（n＝618）

青少年の施設への要望（上位5位）		
友達や仲間ができるようにしてほしい	160	25.9%
楽しいイベントや講座を開いてほしい	157	25.4%
趣味のイベントや講座を開いてほしい	149	24.1%
施設の利用料金を安くしてほしい	143	23.1%
開館する曜日や時間を利用しやすいようにしてほしい	129	20.9%

（複数回答）

ウ　青少年や若者の政策に望むこと

要望としては、「放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する」（36.1%）、「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」（32.8%）、「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させる」（29.4%）の順となっている。

（n＝618）

川崎市が取り組む青少年や若者の政策に望むこと（上位10位）		
放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する	223	36.1%
経済的な困難を抱えている家庭を支援する	203	32.8%
いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させる	182	29.4%
青少年や若者が参加できる様々なイベントなどの情報を提供する	175	28.3%
地域の人とふれあい、様々な体験をする社会参加の機会をつくる	158	25.6%
多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育を充実させる	151	24.4%
障がいのある人や、虐待を受けている人、虐待を受けた経験のある人を支援する	149	24.1%
不登校やひきこもりなど、困難を抱え社会に出られない人が自立できるよう支援する	147	23.8%
薬物やたばこなどの有害なものから子どもたちを守る環境づくりをする	112	18.1%
就職に向けた相談やサポート体制を充実させる	109	17.6%

（複数回答）